

砂川市

0325 中井 祐一郎

1 砂川市の地理

砂川市は北海道のほぼ中央に位置し、東は夕張山系を境に赤平市、歌志内市、上砂川町に隣接した丘陵地帯が続き、西は石狩川を挟んで新十津川町、浦臼町に、北は空知川を挟んで滝川市、そして南は奈井江町に隣接した平地地帯が広がっている。

東西に約 10.5km、南北に約 12.7km、総面積は 78.69 平方 km あり、市街中心部は平地地帯で南北に細長く展開し、中央には基幹道ともいべき国道 12 号のほか、JR 函館本線や道央自動車道がそれぞれ南北に伸び、豊かな緑と水に囲まれた商工農のバランスがとれたまちである。特別大きい都市ではないが決して少ない人口ではなく、商工農だけではなく 全体的にバランスの良い都市と言っていいだろう。図 1 のように旭川と札幌との間の中央に位置する。

砂川市の気候は大陸性の気候で四季の変化がわかりやすく、特に春から夏は爽やかに過ごせる。例年、初雪は 10 月下旬～11 月初旬で最深積雪は 120 cm 位になるが、4 月上旬には融けて無くなる。年間平均気温も 7.6 度で北海道の中では驚くほどのものでもない。大きな特徴もなく過ごしやすい気候といえるだろう。

2. 砂川市の語源

砂川市は文字に「川」が付いているだけあって川とはふかいかかわりがある。それについて述べたい。砂川の語源は、アイヌ語のオタ・ウシ・ナイを意識したものである。「オタ」は砂、「ウシ」は多い、「ナイ」は川を意味している。石狩川と空知川に抱かれるような地形の砂川には、上流に歌志内を源とする「ペンケオタウシナイ川」と、下流に市街の中央を流れる「パンケオタウシナイ川」があり、アイヌ語の地名「オ タウシナイ」が生まれた

このように川と砂川市は深い関係がある。それどころか、語源に関して言えば川がすべてを担っている。川と砂川市は、切っても切り離せない関係なのである。

図 1 砂川市の位置



出典 砂川市公式ホームページ

図 2 ペンケオタウシナイ川

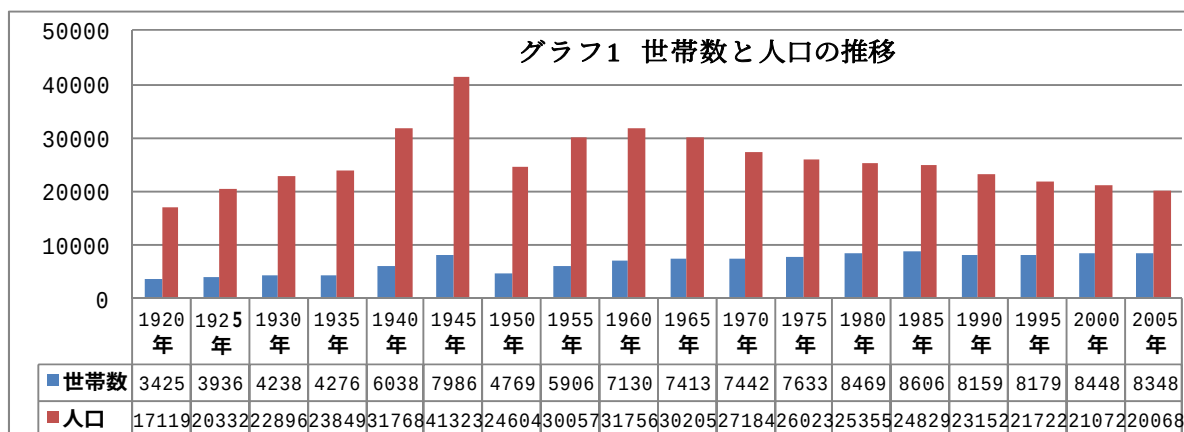


出典 歌志内西小学校ホームページ

3.現在の人口と人口の歴史

砂川市もほかの町と同様に独自の事情で人口が変化してきた。それについて述べていきたい。

砂川市の人口は、最も多かったときには4万人を超えていたが、1948年に上砂川が分町し、直後は2万3千人台となった。その後、工業の進展に伴い人口が増加。1957年に市制が施行され、翌1958年には32,495人と市制開始後のピークに達した。以降はさまざまな要因から減少を余儀なくされ、2010年3月31日現在で19,150人（9,123世帯 男性8,939人 女性10,211人）となっている。砂川市の大きな人口の変遷は上記の「現在の人口と人口の歴史」で記された通りである。それでは現在の人口19,150人に至るまでの細かい人口の推移はどうであろうか。砂川市は市ではあるが全国的にみれば大きな都市ではない。それゆえに日本全国の人口の増加がストップして人口が減り始めるよりも前から砂川市では人口は減り始めていた。日本の誇る大都市東京や北海道 No.1 の都市札幌、そしてそれに次ぐ大都市で近くに存在する旭川への人口の流入を防げていないのかもしれない。



出典 砂川市公式 HP

1920 年から 1945 年までは人口は上昇を続けた。しかし、1945 年から 1950 年にかけて人口は半分近くにまで減少している。これは、後で述べることになるだろうが、ちょうどこの時期にエネルギー源の転換期むかえていた。石炭の採掘で栄えていた砂川含む周辺地域はそのあおりを受けたのだと思われる。そうして町全体が衰退していったのだろう。をこれらのことは砂川市にとって好ましいとはいえない状況である。その後 1960 年までに人口は少し盛り返したのだがそこから 2005 年まで減少し続けた。地理的に見れば札幌と旭川との間の中心に位置するがためそれら大きな都市に人が流入してしまったのであろう。また、人口に対する世帯数の割合が高まっていることから核家族化が進んでいることもわかる。

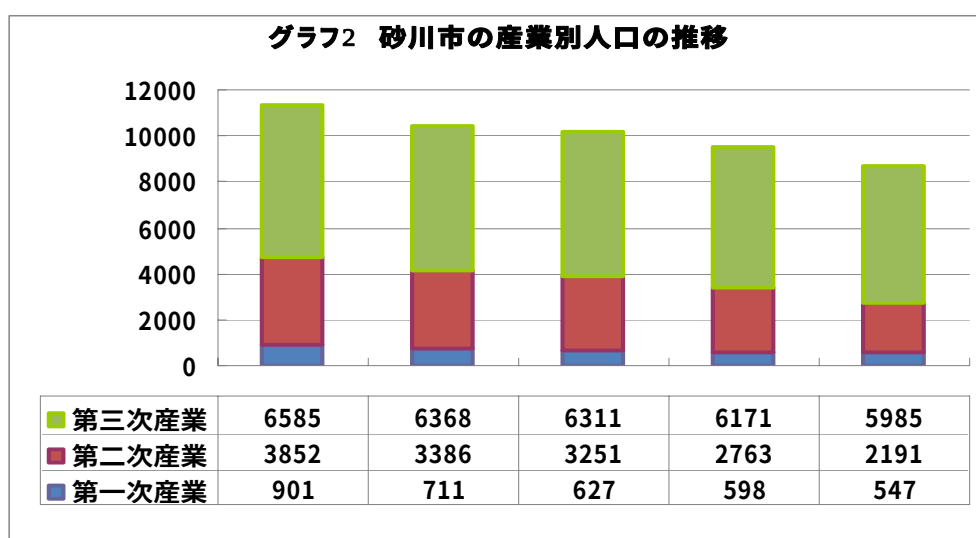
4.砂川市の産業

4.1 砂川市の産業

前にも述べたが砂川市は全体的にバランスのとれた都市である。商工業のバランスはよくて、なにかが足を引っ張っていて、何かが突出しているわけでもない。バランスがよいのである。それについてもう少し詳しく述べたいと思う。

砂川市の産業はバランスが良いといっても主体の産業は存在する。化学肥料、爆薬、コンクリート製品の工業である。砂川市はどちらかといえば工業都市なのである。農業は稲作、畑作、野菜、果樹園どれも取りそろえており何でも屋なのである。商業では観光が分かりやすいものである。観光については後で述べることにする。これらの商工業が話を乱すことなく存在することで現在の砂川市の産業は成り立っている。

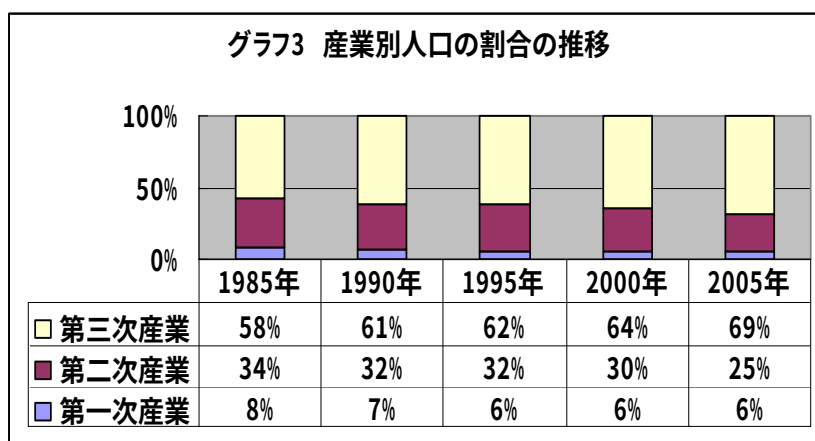
4.2 砂川市の産業の割合と推移について



出典 砂川市公式ホームページ

これまで商工業について砂川市の産業をみてきたが、少し視点を変えて第 1 から 3 の産業について上のグラフを見ながら簡単にみていく。各項目、人口は減り続けている。これは砂川市の人口の減少に伴っている。第 1 次産業の値はこのグラフではあまり大きな変化は見られないが、それは第一次産業における従事者の絶対数が少ないからである。減少の割合でみればほかの 2 つの項目と同じように減少しているのがわかる。砂川市も日本全体に見られる傾向と同じように第 3 次産業への就業者が多くそれに次いで第 2、第 1 となっている。北海道だからといって農業などにたくさん就業者が集まったりするわけではない。それでも本州の都会に比べれば高い割合だろう。

グラフ 3 は産業別人口の割合の推移がわかりにくいので見やすくしたものである。こうしてみると、ペティ・クラークの法則がきちんとあてはまっていることが一目でわかる。

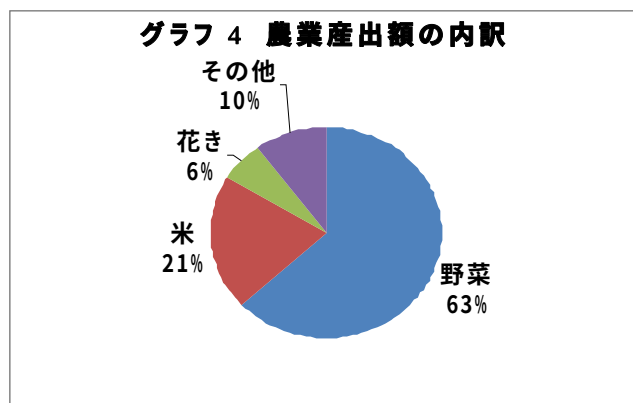


出典 砂川市公式ホームページ

4.3 砂川市の農業

砂川市の農業は稲作を中心とした複合経営である。4.2 の続きになるが農業について表を見ながら見ていこう。下表は砂川市の農業産出額をまとめたものである。

砂川市は稲作が中心であると先ほど述べたが意外にも産出額を見ても砂川市を潤しているのは野菜のほうであった。耕地率等をみると水田率が



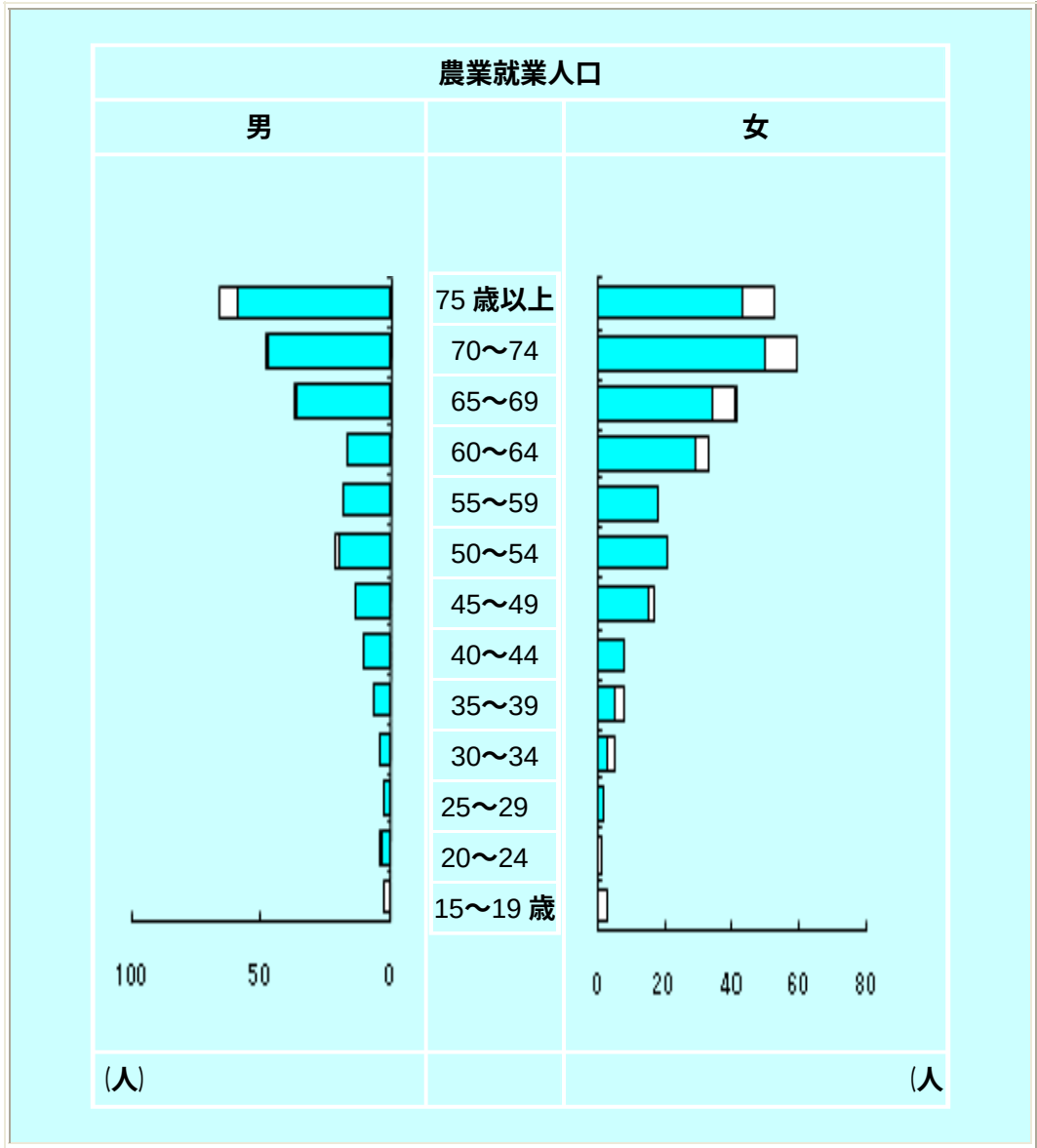
出典 わがマチわがムラ

55.9%で耕地率が、20.7%と水田率のほうが圧倒的に大きくなっているにもかかわらずだ。農業産出額の内訳ではコメが野菜の三分の一しかないのである。北海道にある以上コメの質が低いだけというのはほぼありえない。そう考えると砂川市の農業のレベルの高さがうかがえる。畜産関係は手薄なようである。

だがそんな農業も存続の危機に陥っている。この表は農業就業者の年齢層を比較できるようにあらわしたものである。明らかに若年層の割合が低い。これは全国的にも同じことが言える。第一次産業に従事する人が減り第二次産業、第三次産業へと人が流れて行ってい

る。このままでは砂川市の農業はすたれていく一方である。何か手を打って事態を改善してくれることを望む。そのためには市の尽力が必要である。

グラフ 5 【農業就業人口・基幹的農業従事者】



出典 わがマチ・わがムラ

4.4 砂川市の炭鉱

砂川市はかつて炭鉱でさかえていた。第一次世界大戦を契機とする経済構造の転換のなかで石炭の価値が急上昇したのを理由に石炭産業は栄えてゆき、それに伴い砂川付近にて社宅や鉱夫住宅、水道、小学校、病院といった施設が次々に整備されていった。しかし、国のエネルギー政策転換および坑内ガス爆発事故によって周辺の鉱山は次々閉山におこまれていった。その影響によってまちもしだいに廃れていった。そういった盛衰をみせた

図3 全盛期の東洋高圧



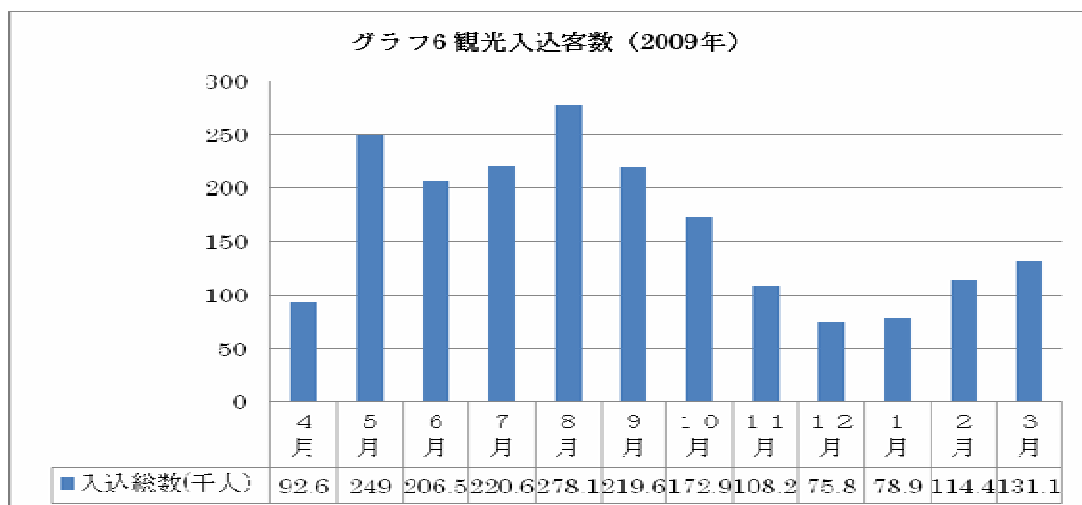
出典 砂川市公式ホームページ

が、衰えた後もその影響を残していった。坑内作業員が厳しい労働条件のもとその疲れを癒すための和菓子の購入、さらには日用雑貨や食料品の購入についても砂川に集中していたことをはじめ、東洋高圧工業社員が土産用に地元の菓子店を利用していたことなどで商店街が繁栄し、砂川の経済基盤を支えてきた。東洋高圧という企業の発展が砂川市の現在の姿を作り上げたといっても過言ではない。坑内作業員のニーズを満たすため設けられた数々の菓子店が、いまの菓子店で有名な地域であるスイーツロードの基盤となった。このようなこともあり、炭鉱と砂川市、あるいは空知管内すべてとは切り離せないものとなっている。

5. 砂川市の観光

5.1 みどりのまち砂川

砂川市は自然に囲まれている都市である。砂川市は、1974年に緑化都市宣言を行い、さらに1984年には環境庁から道内初のアメニティ・タウン（快適環境都市）の指定を受けた。



出典 北海道統計課

以降、アメニティ・タウン構想を軸に「公園の中に都市がある、美しいまちづくり」を推進し、市民一人あたりの都市公園面積は 192 平方メートル（平成 22 年 3 月現在）と日本一を誇っている。このようにあふれる緑は観光者数にも表れている。

グラフ 6 は 2008 年の各月の観光者の入込数の推移を表したグラフであるが、観光者数は夏場にピークを迎えている。やはり砂川の見どころは、夏の緑なのである。反対に冬場に観光者数が少なくなっているのは気になるところである。

5.2 砂川ハイウェイオアシス

砂川市は自然の豊かな都市である。その豊かな自然を生かした観光スポットが砂川ハイウェイオアシスである。ハイウェイオアシスは、レストランや売店、多目的ホールなどが完備された高速道路に直結した休憩所。周囲を緑に囲まれている環境の良さもあって、この場所を目的地に短いドライブを楽しむ人も多い。北海道各地の名産がほとんどそろっているので、観光バスが必ず立ち寄る場所にもなっている。チョコレート専門店「ショコラノラルホリ」のチョコレートをたっぷり使用したソフトクリームは、ファンが多い逸品。知る人ぞ知る名物になっている。北海道子どもの国と併設。そのこどもの国は遊具がありメダカやクワガタをとれる自然環境もあり、かつ公立故安いので天気の良い日、こどもを遊ばせるには最高である。その土地は広大で 1 日ですべての遊具やみどころを見てまわるには相当な体力が必要である。高速道路から入ることが可能でキャンプ場まで完備してある。そして、高速道路から入ったにもかかわらず U ターン可能なのである。大人もこどもも楽しむことができるすぐれたアミューズメントパークで、まさに砂川市の誇る最大の観光スポットなのである。そんな風景を載せよう。

図 4 緑あふれるこどもの国



砂川市公式ホームページ

5.3 スイートロード

砂川市の観光にはもう一つの目玉がある。砂川市に詳しい人にきけばスイートロードという名が出てくる。観光するならむしろこっちのほうがいいという人さえいる。中でも北

菓楼は新千歳空港にも出典しており、今や北海道を代表する菓子会社の一つとなっている。

またほんだ、いよだ、壺屋、なかや、岩瀬牧場など様々な菓子店があり国道 12 号線沿いは別名砂川スイートロードと呼ばれている。

図 5 北菓楼の夕張メロンゼリー



参考

出典 北菓楼ホームページ

砂川市公式 HP :

<http://www.city.sunagawa.hokkaido.jp/modules/pico1/index.php/content0029.html>

みんなカラ : <http://minkara.carview.co.jp/userid/322304/blog/8880465/>

砂川ハイウェイオアシス[BEST! from 北海道] :

http://www.bfh.jp/theme/theme_searchdetail/40020209701/

農林水産省公式ホームページ : <http://www.maff.go.jp/>

農林水産省わがマチわがムラ :

<http://www.machimura.maff.go.jp/machi/map2/01-02/226/agriculture.html>

歌志内西小学校 HP : <http://utashinai-nishi.com/modules/myalbum/photo.php?lid=87>

北海道観光入込客数調査報告書 :

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/nr/rdonlyres/226c031a-707C-4fbe-976d-bbaf902f31f1/0/siyouhenn.xls>

北菓楼ホームページ : <http://www.kitakaro.com/category/20/>